

令和6年度北海道高等学校音楽教育研究会総会採決結果

北海道大麻高等学校

道高音研事務局長 松本浩司

1. 会員への周知方法

メール添付により R6 総会議案書を各地区の会員に送信する。

2. 審議（採決）方法

① R6 総会議案書につけてある QR コードを読み取り採決用フォームにアクセスする。

3. 採決結果について

ア 令和5年度 活動報告について

承認する 68名 承認しない 0名 ー承認

イ 令和5年度 決算報告について

承認する 68名 承認しない 0名 ー承認

ウ 令和5年度 監査報告について

承認する 68名 承認しない 0名 ー承認

エ 令和6年度 活動計画（案）について

承認する 68名 承認しない 0名 ー承認

オ 令和6年度 予算案について

承認する 68名 承認しない 0名 ー承認

カ 道高音研役員について

承認する 68名 その他 0名 ー承認

ケ自由記述欄（今後検討が必要な記述のみ抜粋しました）

・ホームページの記事や共有資料の更新頻度を向上し、各地区での活動の交流を促す工夫が必要だと感じています。機関誌「どるちえ」の内容と重複しても良いと思いますので、実践レポートをホームページに転載したり、各地区での研究協議会や研究授業等の取り組みを可能な範囲で発信したりするなど積極的に活用することで、広域分散型の北海道における研究実践の相互交流を推進できればと考えています。また、各地区理事の先生方を中心に、研究協議会等で実践した指導案や教材等についても、ホームページ上に共有資料として積極的にアップロードしていただければ、波及効果も見込めるのではないかと思います。

・心配していることがあります。少子化で学校規模が縮小されたり、学校が統廃合されていくことは今後、避けられないと思います。私が所属している高校も10年前の着任時は4間口ありましたが、現在は1間口です。さらに今年度の入学生が20人未満になりまして、学校として存続をかけ「地域連携校」という道を選択しました。「地域連携校」となると有朋高校からの配信授業（T-base）の利用や協力校と連携することができるメリットがある中、教員の定数が「1減」となる、何事にも代えがたいものが失われます。そうすると芸術科は削減されるという選択肢があがってしまうのは、想像の範囲内と皆様を思うでしょう。私自身、教育課程に芸術（音楽）を残し、時間講師でもなく、T-baseでもなく「専任」としての音楽教員を残すことのために働きかけを行っていますが、どうなるかは、私だけで決めることはできない状況です。道南、函館市内を見ると、函館工業や商業、函館中部などのこの地域で見ると間口の多い学校は、芸術（音楽）が教育課程に無かったり、時間講師です。道南の函館市内以外の学校も時間講師であったり、教科として無かったりしています。今後、この流れは加速して行くのではないかと危惧しています。どうしたら良いかは、自分自身、明確な答えはありませんが、これまでは、部活動や行事などで学校内で音楽としての存在感を出していた部分はあるかと思っています。音楽の教科が、学びに必要で、実社会との結びつきを持ったり、生徒たちの将来に結びつく資質・能力が育まれたりすること等を明確にして、周囲も共感して「音楽は必要だね」と思ってもらわないとならないと思います。高音研という組織として、一人一人の力では不足ですので、組織として教科としての音楽が失われない、音楽教員が少なくならないよう働きかけたり、教科としての音楽の必要性を考えていく必要があるのではないかと思います。

・QRコードだけではなく URL も載せた方がパソコンでも扱えて回答し易いので良いと思います。

・滝廉太郎コンクールの予選の動画提出について、そろそろデータ提出として頂けませんか。ご検討ください。

以上の結果から、審議事項はすべて承認されました。貴重なご意見をいただき感謝しております。

今後、常任理事会等でそれらのご意見等を取り上げ審議していきたいと考えております。